

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{18m} 1 2 3 4 5

始



特 104

694

大正十一年六月廿九日

國立國會圖書館

大正十一年六月廿九日

國立國會圖書館

國立國會
51.10.1
圖書館

大正十一年六月廿九日

澤村長十郎
河原崎權十郎
合同大一座

一番目 義經 千本櫻 二幕

木の實より鮎屋まで

中幕 市原野 長唄囃子連中

三世河竹新七作

二番目 籠釣瓶花街 醉醒 三幕

仲の町見染より大屋根捕物迄

澤村長十郎	澤村百之助	中村幹尾	坂東竹若	片岡燕之助	中村又之丞	市川米之助	中村又之助	山崎扇女	市川小七	河原崎權十郎
-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	------	------	--------

乍博口上

常盤座

常盤座

長唄連中
芒原の場

平井保昌 澤村長十郎

鬼童丸 中村幹尾

袴垂保輔 河原崎權十郎

中幕市原野壹幕

市原野芒原の場

市原野芒原の場 本舞臺一面に秋草の交つた芒野原、向ふは廣野の遠見、上手より満月がかつて居る。下手に市原野と記した榜示杭、風の音にて幕明く。常磐津へ行水の濁れば清む世の中の、治亂を胸に保昌は、限なき月に吹きすさむ、笛に餘念も啼く蟲のすだく道野邊幾返り、運ぶ歩みも計策の一助と誰か白檀弓。
〔野に狩人のなきものを、連て騒だつ雁の聲。〕
と保昌、花道よき所に立留まり。



〔今宵も最早三更近く、空晴れ渡り皎皎たる月下に往き交ふ人もなく、原野へ落る雁と、尾花にそよぐ風のみにて己が好める笛竹に、心耳を澄す事ちやな。〕
〔人の心は浅茅生の浅くも露を置き兼て、風の尾花を招くか呼ぶか、秋の蛙の啼きつれし、聲もとぎれし草野原、又も調ぶる笛の音に。〕
と宜しくあつて、笛を吹きながら舞臺へ来る。よき程に向ふ芒原を押し分けて袴垂保輔、百日鸞籠手脇當にて半身をあらはし、保昌の方を見込む。本釣鐘、折
〔今宵ぞ心保昌が後を窺ひ忍び足、折こそよしと不敵にも疊かけたる袴垂。〕
と保輔芒原を出でて忍び足に寄つて保昌を斬らうとして、斬り兼ねる思入れ。
〔只一打ちと抜きかけるを、さしつたりと笛竹の、ヒエフウ三つの早業に、あしらひ兼て立どなく、茂みへ暫し草隠れ。〕

と袴垂一腰抜いて斬てかゝるを平井保昌笛をもつてあしらひ、大小入りの鳴物にて兩人立廻り有て、袴垂芒野原にかくれる。保昌につたりと思入れ。
〔こなたは後を見向きもやらず、幾野にあらぬ市原野、又もや道を遮れば、と保昌悠々と上手へ行きかける。この時袴垂、上手の芒原より又出でて斬込む。保昌身をかはして、
『さてこそ曲者』
と呼ぶ、袴垂、
『何を……』と受ける。
〔烈しき夜半の山風に、もつれ合ふたる萩芒、今まで冴えし月影も、秋の習ひに雲立ちて、暫し闇にぞ、と、芒原より鬼童丸の皮を被りて現はれ、二人の間からみ、だんまり模様となり、とど保昌持つたる笛を捨て、太刀を抜き、三人の立廻り宜しくあつてよき見得、三重かけりにて幕。〕

序幕 吉原仲の町の場

佐野治郎左衛門
下男次六
立花屋長兵衛
白倉屋萬八
茶屋廻り
同 太鼓持 調二
同 若者 勘造
同 傾城 八橋太夫
同 遺り手 九重太夫
同 番新 薄雲
同 同 初霜
同 同 濃紫
同 同 小梅
同 同 花扇
同 同 八重咲
同 同 七越
同 同 葛城
同 同 縁城
同 同 糸切
同 同 禿切

澤村長十郎
中村幹尾
市川米之助
澤村
百々左衛門
澤村鉄之助
中村幹三郎
中村珊之助
松本治郎
山崎河助
山崎紫之助
澤村百之助
中村又之丞
山崎河升
市川玉藏
市川扇之助
澤村百々調
坂東市之助
中村歌笑
中村芝梅
澤村紀之助
澤村いろは
片岡燕枝
中村幹平
松本錦魚
澤村國丸

二番目 籠釣瓶花街酔醒 三幕

三世河竹新七作

序幕 吉原仲の町の場
二番目 立花屋見世の場
大音寺前浪宅の場
兵庫屋遣手部屋の場
同 八ッ橋部屋の場
大廣間縁切の場
立花屋二階の場
同 屋根捕物の場

吉原仲の町の場 野州の絹商人佐野治郎左衛門は、下男次六を供に連れ、江戸に商賣に出たついでに、吉原見物にまゐりました。
恰度花の盛りで、廓の内は大賑ひ、彼方此方を見惚れて歩いて居るうちに、盛り場にありがちなボン引に引懸つて、兩人は困つて居ます。それを引手茶屋立花



屋の亭主長兵衛が見て氣毒に思つて助けます。主従が厚く禮を言つて、大門口へ歸りかけると、『道中だ〜』と言ふ人々の聲、フト治郎左衛門が見ますと、當時廓に全盛の八橋太夫といふ花魁、何ともいへぬ美しさです。治郎左衛門は其の後姿に見惚れて居ましたが、俺あもう宿に歸るのがいやになつたと言つて、次六を困らせます。
立花屋見世の場 八ッ橋太夫の親判で釣鐘權八といふ遊人が来て、亭主の長兵衛に會ひ、聞けば八ッ橋は、佐野の大盡に身請されること、左様なれば縁に繋る自分のことゆゑ、大盡に話して商賣の資本を借りて呉れろと頼みます。併し度々の金の無心のことゆゑ、長兵衛が斷りますと、權八は怒つて覺えて居ると言つて歸ります。あとへ前幕の佐野治郎左衛門は、友達の絹商人二人を連れて來ます。此の二人は初めてだから、よい花魁

を出して呉れ、あとから次六も來るといふので、長兵衛委細承知します。そこへ下女が八ッ橋の來たことを傳へますので花魁が待ちかねてのお迎へだの、やれ色男様だのと皆から言はれて、治郎左衛門は何とも言はれぬ嬉しさです。やがて番新、禿、若い者などがついて、八ッ橋が來まして、治郎左衛門の傍に坐ります。連れの絹商人等は、今見ると、八ッ橋が思つたよりも更に幾倍か美しいので、それを手に入れた治郎左衛門を褒めそやしいよ〜兵庫屋へ行くことになり、下女に名代に出たうございませと世辭を言はれて、こりや眉毛に唾をつけて置かうと二人は眞面目でいふ可笑み。するとこれを聞いた治郎左衛門は、眉毛に唾をつけるとはいや廓には初心でござる喃と笑ひます。
大音寺前浪宅の場 主人の繁山榮之丞は、八ッ橋の情人で、花魁の仕送りで安

立花屋二階の場
大屋根捕物の場

佐野治郎左衛門	澤村長十郎
繁山榮之丞	坂東 竹若
釣鐘 權八	市川 小七
若い者 與助	澤村鉄之助
太鼓持 半中	澤村 百々左衛門
同 鯉中	松本 治郎
若い者 者	大ぜい
鳶の者	大ぜい
立花屋女房 おきつ	中村又之助
やり手 おたつ	市川 玉藏
女中 おさき	市川扇之助
新造 八重咲	澤村紀之助
藝者 おいと	中村 芝梅
同 おこと	中村 歌笑
傾城 八橋太夫	澤村百之助



立花屋、先づ兄に向つて、幼少より學んだ劍術柔道が役立ち、此度西國の或る大名に抱へられ、武士になる考へと言つて全財産を兄に譲り、また兄の娘には次六を嫁にして、すべてかたをつけ、それとなく故郷に別れを告げ、村正銀への悪剣「籠釣瓶」を持ち、四ヶ月振で吉原へまゐりました。立花屋では夫婦を初め、馴染の番新始め女中に至るまで、案じて居た大盡が、思ひがけなく顔を見せて呉れたので、大いに喜び挨拶します。治郎左衛門も機嫌のよい様子で、これで残りの勘定と祝儀をやつて呉れと、亭主に金包を渡します。酒肴が運ばれ、太鼓持や藝者など大勢出て賑かに酒宴が始まります。ところへ八ッ橋が来て、來られた義理ではないが、勘忍してと訛を言ひますと、治郎左衛門もさう改まられては却つて面目無いと打解けます。一座は大盡が花魁に話もあらうと、皆々階下へ降りてしまひます。四邊に人無きを見計つた治郎左

衛門は、八ッ橋に盃をさし、此の世の別れちや飲んで呉れと言ひ、驚いて逃げようとする鬚を掴んで引倒し、恨みの數々を述べ床の間に置いた籠釣瓶の一刀を取上げ、八ッ橋を斬ります。下女が燈火を持つて來て此の場の有様を見て、驚き逃げようとするのを、これも斬り倒します。燈火は疊に落ちたなり燃え上りますと、此の灯影に一刀を翳して見て、「籠釣瓶はよく切れるなア」と、じつと見入つて物凄き薄笑ひ。やがて遠く近く「人殺し人殺し」といふ聲が聞えます。

同 屋根捕物の場 部屋障子を押した破つた治郎左衛門は血塗れの形装になり血刀を下げて出で來り、遁け路をさがして居ります。憎いと思ふ八ッ橋を斬つた治郎左衛門は、權八を初め多くの者をも殺しましたのでございませう。屋根の上にかげ上つて治郎左衛門は、更に恨み重なる戀の敵の榮之丞をも斬つてしまひます。一大事が起りましたので、廓の若い

者から、詰合の鳶の者、手先などが、或は根棒、或は鳶口、手鍵または十手などを持つて打つてかゝりますが、幼少の折都築武助といふ浪人に、數年仕込まれた治郎左衛門の腕に鋭利此上無い村正の悪劍を持たしてあるのですから、到底敵し難く、おひくに怪我が殖ゑて行くばかりでございませう。止む無く一同は思案して、往來から龍吐水で水を掛けはじめました。これには流石の治郎左衛門も、瓦が濡れ足がこつて思ふやうに倒けず、とど刀を叩き落されます。そこへ大勢折重なつて、召捕つてしまひます。

大正十五年三月八日印刷
大正十五年三月十一日發行
東京市日本橋區橋町四丁目十五番地
編輯兼 發行 人 東 政 次 郎
東京市京橋區錦屋町五番地
印刷者 佐 藤 保 太 郎
東京市京橋區錦屋町五番地
印刷所 文 祥 堂 印刷 所

美味に滋養

飲むだけ身になる食前食後の一盞

○ミツワ人參葡萄酒

滋養強壯料



(圖寫縮品現)

風味高潔清和滋養豊富

元氣増進興奮作用優秀

○ミツワ人參葡萄酒は科學的研究を経て效力卓絶と認められたる人參を、特殊の操作に依り芳醇無比の葡萄酒に配合したるものにして、其の色は紫紅にして鮮麗、其の香は芳芬にして澄爽、其の味は濃厚にして輕快、能く何人の嗜好にも順應し、元氣を増進せしめ榮養の佳良並に身體の強壯を齎し、精神の困憊並に筋骨の疲勞を除き、尙健者に新活力を賦與する上に於て他の物を以て代ふべからざる効果あり、而も隨時隨處飲用すべく、一度沸騰したる水或は諸種の清涼飲料を以て稀釋するも可なり。

賣捌 和洋酒食料品店・藥舖・化粧品店・雜貨店

○ミツワ石見丸(町長二區谷下市京東) 舖本 齋石ワツミ

内務省東京衛生試験所検査封緘

定價一罇金壹圓

日本藥局方 ○葡萄酒

朝鮮浦項○ミツワ農場釀造 技師 農學士 仲野 隆一



(圖寫縮品現)

日本藥局方の規格に適合せる

國産純良葡萄酒

日本藥局方○葡萄酒は朝鮮浦項ミツワ農場に生産せる葡萄酒の良實を精選して之を最も進歩せる科學的方法に依り搾取精製せるのみか、更に再三嚴密なる検査を経たるものなるが故に、彼の從來の類種の間、味付、色付、増量等の殊更なる加工を施したるが如きとは全く異り、文字通り醇良其ものたり。加ふるに其生産釀造の所を記して責任の所在を明かにしたれば、特に藥局用として大に大方醫家の推奨する所に係かる。即ち之を用ふれば藥餌的滋養の速効を奏す。尙單舍利別の少量を加ふれば其味甘美を極め、下戸婦人及小兒等の飲料として甚だ好適に、所在混成酒等の及ぶ所に非ず。經濟的好飲料たると同時に、其最も安全なるを以て稱揚せらる。

賣捌 全國の藥舖に取次販賣したい居るす

○ミツワ石見丸(町長二區谷下市京東) 舖本 齋石ワツミ

服用易き錠劑の婦人薬

適應症候
 血の道、頭痛、頭重、逆上、眩暈、貧血、月經不順、腰痛、下腹痛、白帶下、膈炎、子宮炎、内膜炎、子宮外膜炎、喇叭管炎、卵巢炎、妊婦産婦急病等

○ミツワ婦人湯薬は、鎮静薬、變質薬、補血薬、強壯薬、月經薬等を配合せる理想的の婦人薬なり。而も錠劑なるが故に煎じる等の手数を要せず、其儘下して温湯を飲めば好き故、更に厭な味を感せず。

○ミツワ婦人湯薬

定價

百錠入

金七十錢

處方を公開し内容を明記せる本邦唯一の
 ○ミツワ家庭薬三十五方の内

理學博士 藥學士 小平勳氏監製



(現品縮寫圖)

全國藥舖各百貨店其・他に取次販賣す
 丸見屋商店 (東京市下谷區二丁目一〇番) 本舖石ツワミ

肝油ドロップスの特色

河合龜太郎創製
 滋養強壯料

本邦及英國
 專賣特許

○肝油ドロップス

- (一) 肝油の効能をビタミンAのみに歸すべからざるは論を俟たず。本品は新特許の方法に依りビタミンAは勿論各主要成分を最も濃厚なる状態に於て含有す。
- (二) 肝油の外、有機性の磷、カルシウム、鐵、キナ及びビタミンB等の強壯劑を豊富に含有す。
- (三) 右の各種の有効物質に麥芽糖及び含窒素物を加へて完全に乳化する。行ひたるを以て、消化吸収最も容易にして胃腸を害ふの憂なし。
- (四) 少球形の菓子状を呈し、取扱、計量、服用に至便なり。
- (五) 佳香にして頗る美味なるが故に小兒は勿論何人も好んで食用するを得、或は細片に剪り温湯又は牛乳にて嚥下するも可なり。
- (六) 滋養性に富む特殊の皮膜を施したるを以て變質腐敗の虞なし。



(現品縮寫圖)

本品は新に特許を得たる方法に依り、ビタミンA其他の主要成分を特に濃厚ならしめたる肝油を原料とし、麥芽糖及び含窒素物を用ひて乳化する完全にし、更に加ふるに有機性の磷、カルシウム、鐵、キナ及びビタミンB等の強壯劑を以てしたる最も優秀なる滋養料なり。

用量、用法、其他の詳細は説明書に記載
 定價 五十顆入 一壇 金壹圓貳拾錢
 價 百二十顆入 一壇 金貳圓貳拾錢

賣場 和洋酒食料品店・藥舖・化粧品店・雜貨店

東京市日本橋區橋町
 丸見屋商店
 下谷區二長町營業所 振替口座東京七一〇番

皮膚は生きて居る

○ミツワ石鹼本舗 東京丸見屋商店

即ち毎日新陳代謝してゐる。其新陳代謝作用を愈々盛ならしめて之を強健且清潔ならしむる。同時に其組織を收斂して肌理を細かにし、更に硬化せるを柔軟滑澤ならしむるが故に、よく之を美化す。即ちミツワ雪の雫の卓効なり。

故にあれ、ひび、あかぎれ、しもやけ、にきび、はたけ、やけど等に効を奏すると同時に白粉下として最も好適のものなり。



(現品縮寫圖)

芳香健膚藥

○ミツワ雪の雫

皮膚を柔軟にし
色艶を麗しくする

○ミツワ家庭藥

○ミツワ石鹼本舗

丸見屋商店

作用が緩和い

脂っぽくて荒易い邦人の皮膚及び眞黒く豊かなるを辱む其毛髪には之で無くては成りませぬ

石鹼分を殘さぬ

洗滌後ぬらつくとか又はかさつく等の事は絶體に無く、さらりと除れてしつとりとします

芳香が温雅です

國産香料を基礎として更に研究配合をしたもので、よから温雅にして眞床しさの限りです

○ミツワ石鹼

中途で溶崩れぬ

中途で決して溶崩れませぬ。最後まで全く同じ調子に使切れますから更に無駄がありません

溶解が適度です

水にさへ氣持よく泡立ちますが、然し決して溶過ぎず、消費が極めて適いのでございます

最も徳用です

即ち邦人の洗滌入浴用として有らゆる効果を發揮して而も長保しますから最もお徳用です



店商屋見丸◎京東 舖本

終

東京文祥堂印刷